

令和 7 年度

水産資源調査・評価推進委託事業のうち国際協調型調査事業のうち鯨資源調査事業 (北半球国際鯨類目視調査・IWC-POWER) 成果報告書

【受託者】

住 所 東京都中央区豊海町 4 番 5 号

氏 名 一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 目的

本調査の目的は、主に北半球産鯨類の分布、豊度解析及び系統群判別に必要な以下の情報の収集である。今年度は、IWC/科学委員会(SC)の調査研究要請に基づいた課題を優先事項として、国際捕鯨委員会(IWC)と日本の共同調査である「IWC/POWER (Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research)」航海において、ライントランセクト方法を用いた目視調査、バイオプシーサンプル採取及び自然標識撮影実験などを実施した。なお、本調査は、IWC が約 30 年間、南半球で確立した IWC/IDCR-SOWER 調査の目視調査方法を踏襲している。

- (1) ザトウクジラ及びコククジラの詳細資源評価に関する情報収集
- (2) 希少種である西太平洋のセミクジラ及びシロナガスクジラに関する情報収集
- (3) 資源情報が不足しているその他の鯨類資源について資源量と系群構造に関する情報収集
- (4) 本調査の中長期計画を策定するために必要な情報収集

2. 調査体制

本調査は、第二勇新丸(747 トン、共同船舶株式会社所有)を用船して実施した。

3. 調査期間

令和 7 年 7 月 22 日 塩釜出港

令和 7 年 10 月 9 日 塩釜入港

4. 国際調査員

国際調査員として、以下の 4 名が乗船した。

村瀬弘人(調査団長、日本・東京海洋大学)

その他、日本人 1 名(IWC 選任国際調査員)及び米国人 2 名(米国海洋大気庁職員及び IWC 選任国際調査員)

5. 調査海域

米国の排他的経済水域のチュクチ海及びベーリング海の一部を調査海域とした。

6. 外国政府の許可

米国政府より、第二勇新丸に対して、同国 200 哩内における調査許可(鯨類目視調査)が発給された。また、米国調査員の所持する米国許可証によって、同国 200 哩内の鯨類への接近

(バイオブシー採取を含む)ならびに音響録音機器の使用に関する許可が発給された。

7. 調査結果

- (1) 目視調査の総探索努力量は、1,162 涅であり、主要鯨類の発見群頭数は、コククジラが 55 群 75 頭、ナガスクジラ 55 群 79 頭、ミンククジラ 7 群 7 頭、ザトウクジラ 21 群 30 頭、マッコウクジラ 6 群 6 頭であった。
- (2) 自然標識の撮影は、セミクジラ 1 頭、コククジラ 62 頭、ザトウクジラ 23 頭、ナガスクジラ 46 頭、シャチ 6 頭の個体について撮影を行った。
- (3) バイオブシーサンプルの採取は、セミクジラ 1 頭、コククジラ 32 頭、ナガスクジラ 12 頭、イワシクジラ 5 頭、ザトウクジラ 12 頭、ツチクジラ 1 頭からそれぞれ標本を採取した。
- (4) 合計 158 観測点において合計約 614 時間の鳴音モニタリングを実施した。セミクジラ、ナガスクジラ、コククジラ、ザトウクジラ、マッコウクジラ、シャチ、ツチクジラなどの鳴音録音を行った。

8. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所第 1 研究部門でデータ確認が行われ、保管される。また本調査のデータは IWC 事務局へも提供される。バイオブシー標本は、IWC 標本を米国 NOAA/SWFSC が、日本の標本は当研究所がそれぞれ保管する。調査結果は 2026 年の IWC 科学委員会へ報告される。